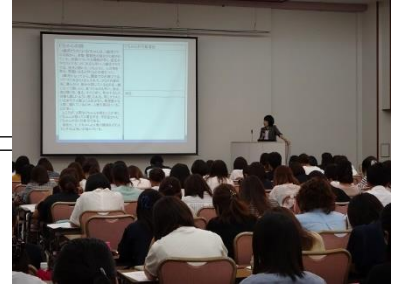


研修名 支援を必要とする子どもの保育

平成30年8月7日(火) 13:30~16:00

講演 「障がいのある子どもと他の子どもの関わり」
「他職種との協働」

講師 京都文教短期大学 張 貞京 氏



1 講演要旨

1) 子どもと担任保育者との関わり (事例を通して考えていく)

①3歳になるA君の手づかみ

②写真から(ケンカをした直前に同じものに興味を持ちじっと見ている2人の子ども達)の声かけや2人に対して、これから大切にしたいこと、大切にしたいことを保育に取り組むとしたらどのようにするかを考えグループディスカッションして気づき、学ぶ

・友達を求めているからケンカになる。友達を求めているタイミングを見逃さない。ケンカは大切な学ぶの機会である。「ごめんね」と謝らせることより、「なぜ?」「どうしたの?」が大切である。

③4歳児クラスの自我の弱さがあるCちゃんの友達との関わりに気づき、対応を考える

④初めての事や変更緊張が見られ、周りを見渡すことも難しくなるほど、体が固まるASDが疑われるDくんの友達との関わりを考え、対応方法を話し合う

・解決するために力を合わせる当番活動や、考え合う(話し合う)時間づくりを持たせる

・友達を再発見させる場面を作る(全体の中や少人数の中)

たとえばD君の得意とする領域を遊びに発展させる

2) 他職種との協働

①伝達事項は自分だけじゃなく他の者でも出来るようにする

②自分のワザを伝授する視点を持つ



2 感想

私は午後からの1)②からの参加でしたが保育を科学していく視点で取り組んでいくことの大切さを理解しました。観察して記録する日々の中で子どもの思いや対応に気づき、手立てを工夫していくことが子どもの望ましい環境づくりにつながることを再認識したので、今後はさらに丁寧に観察し記録していきたいと思いました。また現在45名の3歳児クラスの担任をする中で、自我が弱く自分の思いが伝えられない子どもが多くいて、どうしたら密度の濃い自我を形成していくような遊びと生活を作って行けるのかと悪戦苦闘しておりました。講演後に保育室が見た目重視の大人目線の環境構成になっていたため、すぐに改善できるところは配置換えをしました。まずは子どもが安心して過ごせるようにしっかりと子ども達のためにぶれない保育をしていきたいです。今後も子ども達を理解するためにキャリアアップ研修に参加して発達道筋を学んでいきたいです。

(記録 松井ヶ丘保育園 児玉光世)